

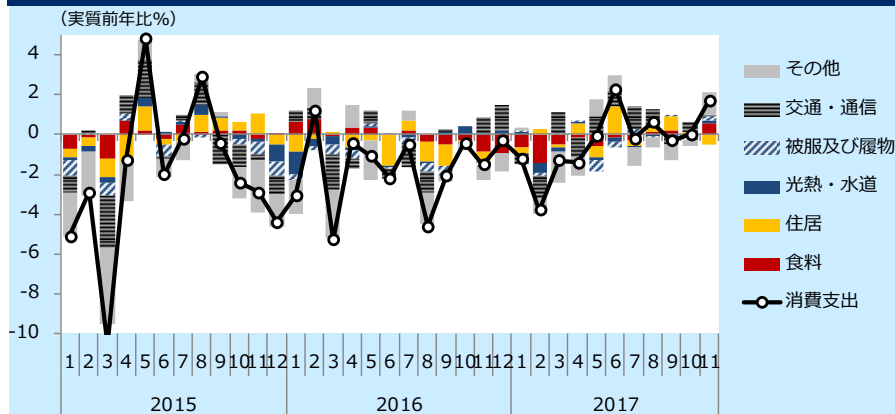
日本：家計調査報告（2017年11月）

— 消費は引き続き緩やかに回復 —

MRI Daily Economic Points

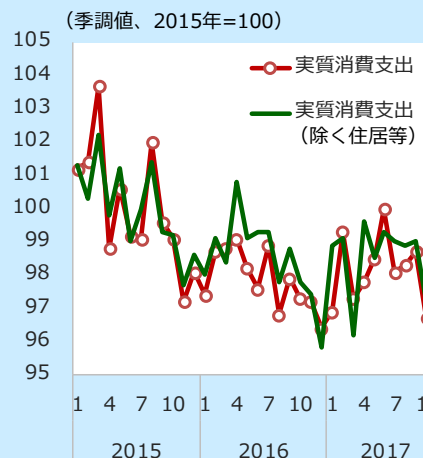
December 26, 2017

図表 実質消費支出



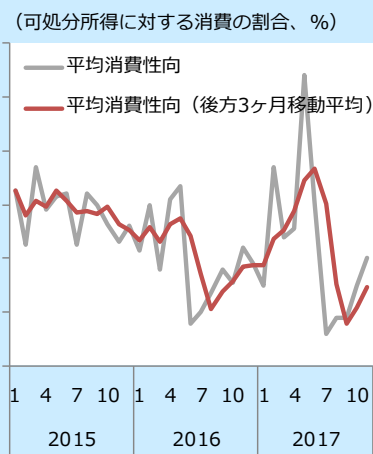
出所：総務省「家計調査報告（二人以上世帯）」

図表 実質消費（季調値）



出所：総務省「家計調査報告（二人以上世帯）」「消費者物価指数」

図表 平均消費性向



評価ポイント

2017年11月の結果

- 17年11月の消費支出（二人以上の世帯）は、実質前年比+1.7%と3ヶ月ぶりに増加した。季節調整済みの前月比でも実質前月比+2.1%と前月（同▲2.0%）から増加に転じた。
- 品目別では、家具・家事用品が実質前年比+20.1%（寄与度+0.73%p）、被服及び履物が同+3.7%（寄与度+0.16%p）とプラスに貢献した。家庭用耐久財（冷蔵庫、洗濯機等）が好調であったことに加え、気温の低下により冬物衣料品の購入が増えたことが影響している。
- 前月に大幅にマイナス（実質前年比▲7.0%）であった教養娯楽も同+1.5%（寄与度+0.15%p）と持ち直した。また、食料が同+2.2%（寄与度+0.57%p）とプラスとなり、外食の増加が貢献している。天候不順で外出等が控えられた前月の反動で、教養娯楽サービスや外食が増加したと考えられる。
- 実質消費支出や勤労者世帯の平均消費性向（季調値）も、均してみれば持ち直しの動きを見せている。

基調判断と今後の流れ

- 消費は、引き続き緩やかな回復基調にある。
- 今後も、良好な雇用環境や株高によるマインドの改善を背景に、消費は引き続き緩やかに回復していくことを予想する。ただし、消費の力強い回復に向けては、逼迫した労働市場を反映した賃金上昇が必要不可欠だろう。